彼女たちは、なぜ被爆地からマリア像を盗み出したのか――?!

岸田演劇賞、芸術選奨文部大臣賞受賞。
戦後演劇史に輝く金字塔「マリアの首」、ついに映画化。

1945年8月9日11時2分、広島に次ぐ二発目の原子力爆弾が長崎市に投下され、人口24万人のうち約7万4千人が一瞬にして命を奪われた。東洋一の大聖堂とうたわれた浦上天主堂も被爆し、外壁の一部を残して崩壊。それから12年の時が過ぎて――、浦上天主堂跡から被爆したマリア像を盗み出す一味の姿があった。首謀者はカトリック信徒のふたりの女。彼女たちは、なぜマリア像を盗み出さねばならないのか……?!

終戦後76年の時を経た現代、あの戦争の記憶をけして風化させないために、戦後演劇史にその名を刻んだ金字塔がついに映画化される。原作は、長崎出身の劇作家・田中千禾夫（たなかちかお）が実話を基に書き下ろした、戯曲「マリアの首」。岸田演劇賞、芸術選奨文部大臣賞を受賞、寓話的かつ哲学的な作劇で、唐十郎や野田秀樹ら後の演劇人にも影響をあたえたといわれる。監督は、数多くのドキュメンタリーを手がけてきた、松村克弥。『ある町の高い煙突』でも見せた、ジャーナリスティックな視点と深い洞察力で、舞台劇の映像化を実現。キャストには、隠れキリシタンの末裔で、看護婦であり娼婦というふたつの顔を持つ鹿を高島礼子。闇市で詩集を売りながら、自分を犯した男への復讐を誓う忍には、黒谷友香。ふたりのヒロインをそれぞれが、母性と妖艶さをはらんで演じる。そのほか、田辺誠一、金児憲史、村田雄浩 、寺田農、柄本明、藤本隆宏、温水洋一、馬渕英里何、宮崎香蓮、井手麻渡、城之内正明らが、重層的な人間ドラマを織り上げる。

主題歌には、長崎出身のさだまさしが「祈り」を提供。曲中のコーラスパートは、奇しくも、再建された浦上天主堂で長崎市民コーラスの協力を得て収録されている。さらに、美輪明宏が「マリア像」の声を唯一無二の存在感で演じ、作品に神秘的な世界をもたらしている。

「祈りし長崎を想う刻」に寄せて

「マリアの首」を演じさせて頂いた美輪明宏です。出演のお話を頂いた時不思議な縁を感じました。と申しますのは、戦前の私の養家先が、小島町2の2番地で、浦上天主堂の近所だったからです。今は平和町と町名が変っておりますが、天使様の内引き合せだと思いお受けさせて頂きました。多勢の心ある方々に、ぜひ観らん頂きたいと思います。

美輪明宏

「祈り ―幻に長崎を想う刻（とき）―」2020年／日本／カラー／110分／シネマスコープ／5.1ch／配給:ラビットハウス / Kムーブ ©2021 Kムーブ / サクラプロジェクト

inori-movie.com　@inori_movie　映画『祈り―幻に長崎を想う刻―』